

学生番号

氏名

1 円環領域 $1 < |z| < 2$ 上の調和関数 $\Phi(z)$ で、次の境界条件をみたすものを求めよ。

$$\Phi(z) = \begin{cases} +100, & |z| = 1 \text{ の場合;} \\ -100, & |z| = 2 \text{ の場合.} \end{cases}$$

また、 $\Phi(z)$ を実部とする解析関数 $F(z) = \Phi(z) + i\Psi(z)$ を求め、 $\Phi(z) = \text{一定}$ と $\Psi(z) = \text{一定}$ で表される曲線がどのようなようになるかを図示せよ。

(注： $F(z)$ は領域 $1 < |z| < 2$ 全体で一価関数にはならないが、この問題では重要ではない。)

[解答] 前回の講義で述べたことから $\Phi(z) = a \log |z| + b$ の形になる。そこで a, b を

$$a \log 1 + b = 100, \quad a \log 2 + b = -100$$

を満たすように選べば良い。具体的には $a = -200/\log 2$, $b = 100$ であって

$$\Phi(z) = -\frac{200}{\log 2} \cdot \log |z| + 100.$$

後半は、共役調和関数を（以前やった方法で）求めても良いがかなり大変である。ただ、 $\Phi(z)$ の形から

$$F(z) = -\frac{200}{\log 2} \cdot \log z + 100 = -\frac{200}{\log 2} \cdot (\log |z| + i \arg(z)) + 100.$$

であることがわかる。(解析関数 $\log z$ の実部が $\log |z|$ であったことを思い出そう。) また、 $\Phi(z) = \text{一定}$ で表される曲線は原点を中心とした円になり、 $\Psi(z) = \text{一定}$ で表される曲線は原点を通る半直線になる。